第１２回　軽井沢２２世紀風土フォーラム基本会議

【日　時】　平成３０年３月２８日（水）　１４：００～１６：２５
【場　所】　軽井沢発地市庭　イベントスペース
【出席者】　名 誉 顧 問：中村良夫先生（東京工業大学名誉教授）
軽井沢駅北口ステーションフロント構想プロジェクトチーム座長
：浅野光行先生（早稲田大学名誉教授）
基本会議委員：朝比奈一郎委員、石坂洋二委員、市村初仁委員、
鈴木幹一委員、須永久委員、横島庄治委員、
志立正嗣委員、島崎アイコ委員、遠藤寛士委員、
荻原確也委員
藤巻進町長

内 容

１．開　会

２．会長あいさつ
・ 議事内容が多いため省略

３．議　事
（１）まちづくり提案についてについて
〇事務局より、まちづくり提案について説明

●提案者　　軽井沢サクラソウ会議

●提案名称　　ヤマタバコ現況調査

●提案内容　　生息地情報の交換・収集、現況調査、保全方策の検討を町と協力して実施したい。

【意見交換】（発言順）

Ａ委員

町として協力するべき活動だと思う。幅広い情報を集めるのに、インターネットは有効な手段である。例えば、ヤマタバコらしき植物を発見した時に、写真をメール送信すればヤマタバコかを確認してもらえるような取り組みがあれば、町歩きが楽しくなる。期間を決めてイベントにしてもよい。

会長

情報発信は盗掘を誘発する恐れもあるので、実施の際には管理体制をしっかりしなければいけない。

Ｂ委員

軽井沢町には他にも希少植物があると推測される。ヤマタバコに限らず、町役場で絶滅危惧種保護のための調査を進めれば合理的である。以前に調査をした事はあるのか。

Ｃ委員

絶滅危惧種の調査をした経過はない。しかし、植物全体についての記録は取っている。今回のヤマタバコをキッカケとして、今後更に他の希少植物調査へと広げていければよい。

提案者

軽井沢の自然について一人でも多くの人に関心を持ってもらえれば次に繋がる。

会長

この事業に町としても公的協力を惜しまないという事で、町長に推薦する。

町長

自分も前植物園長よりヤマタバコの希少性を教えてもらったからこそ残さなければいけないという気持ちが芽生えた。知ってもらう事が大事である。

（２）軽井沢駅北口ステーションフロント構想プロジェクトチームの報告について

〇軽井沢駅北口ステーションフロント構想プロジェクトチーム（以下、北口ＰＴ）座長より、北口ＰＴの報告について説明

（『軽井沢駅北口まちづくりデザインガイド　歩いて楽しめる軽井沢のゲートエリアを目指して』参照）

会長

北口ＰＴより、今後の実施に向けた課題まで纏めてもらい有難い報告書となった。これを受けて基本会議は、北口ＰＴの報告書をどのように全体に位置づけ、実現可能なプランニングとして纏めていくのかを考えなければ意味がない。

【意見交換】（発言順）

Ｂ委員

まずは交番移設が最初のステップではないか。北口ＰＴでは、実現に向けてどういう一歩を踏み出すのか議論したのか。

北口ＰＴ座長

色々な事を同時に進めなければいけないが、交番移設問題は町にお願いしている。また町民には広場を利用しマルシェなどを開催し盛り立てていくムーブメントを起こさなければいけないと思う。その辺りから始めるのがよい。

町長

交番移設の必要性は訴えているし、これからもお願いしていく。

Ｄ委員

中軽井沢駅前では、住民が参加するマルシェが定期的に開催されている。呼び掛けがあれば参加者はいる。矢ケ崎公園と軽井沢駅の中間地点や横町等、ポイントで何か空間を作ることができれば、歩いている人も楽しめるようになる。

会長

提言書には、大きな提案から、細かい提案まで入っている。手順と誰が主体（官・民・官民）という仕分けを間違えないように進めれば、相当よいものが出来るのではないか。新軽井沢の明日を語る会が主導となり住民から声が出たことは、軽井沢 22 世紀風土フォーラム（以下、風土フォーラム）が期待していた最大の答えである。将来展望、未来の事業展開についてしっかり見届けたい。

（３）住民参加型プロジェクトの報告について

○事務局より、住民参加型プロジェクトの報告について説明

（『平成 29 年度軽井沢 22 世紀風土フォーラム[住民参加型プロジェクト]みんなで軽井沢の未来のことを考えるワークショップ報告書』参照）

【意見交換】（発言順）

Ｄ委員

今年度のワークショップは、興味のある人が集まっての開催となったが、来年度の挑戦としては、興味のない人にも参加してもらえるような仕掛けを考えたい。地区、商店街、ＰＴＡ等人が集まる場所に出向き開催するのも方法ではないか。

会長

期待に沿うようにしたい。

４．講話

〇風土フォーラム名誉顧問による、風土フォーラムの振り返りと今後の展望についての話

・軽井沢は過去 100 年目覚ましい成果を上げたが、問題も出てきており、新しい未来への 100 年を考えないと、過去の栄光を継続できないのではないかという危機感があった。軽井沢に新幹線が通り、日帰り客が爆発的に増えた事も、次の 100 年にとっては危機であった。過去 100 年を活かした、未来 100 年を切り開いていきたいと考え、グランドデザインが出来上がった。そして、町民と別荘民が一緒に軽井沢の風土に合うものを作り上げて行くための心意気を「風土自治」と表し、風土フォーラムが必要だと提案した。

・風土フォーラムの中心は基本会議だが、必ずしも公式的な会議だけではなく、ホテルのロビーのような機能を持つ場所に人が集まり、お茶やお酒を飲みながら自由に懇談すれば、そこからアイデアが生まれ人と人が繋がる。そういう場所が軽井沢なら出来ると考えた。

・風土フォーラムにはモデルがある。日本の中世時代に、住民自治と地域開発が合う理想的なモデルがあった。村々で「鎮守の森」を中心に宮座という自治組織があった。宮座では、用事が無くても皆が集まりお茶を飲んだりする場所があった。私は、このような場所を作らなくてはいけないと考え、発地か中軽井沢がよいと思った。発地に決めた最大の理由は、浅間山がよく見える事であった。軽井沢の持つ風土的な深さの代表は浅間山だと思い、そういう旗印的な存在を持ちながら非常にモダンなデザインを開発していく。これを「軽井沢モダン」と名付けたが、北口ＰＴはその代表的なものである。

・2017 年に都市公園法が改正され、公園管理者の許可を受けた上で、保育所やレスランなどの誘致も認められるようになった。矢ケ崎公園も、軽井沢駅前のモデルチェンジと同時に検討していく方がよい。そうすれば、理想的な 22 世紀の駅前広場を作りやすくなる。風土フォーラムが持っている精神を存分にくみ取り進めてほしい。

【意見交換】（発言順）

Ｂ委員

かつて寺はコミュニティの中心にあり、檀家が何となく集まる場所という機能を持っていた。軽井沢は宣教師中心に作られた町だが寺もあり、日本の過去の歴史とは切り離された発展がある。日本の過去の在り方を活用した方がよい部分と、軽井沢ならではの伝統・慣習から切り離された部分の可能性について、考えを聞きたい。

名誉顧問

伝統ある軽井沢に、新しいものを大胆に入れ、それが伝統化していく事が「軽井沢モダン」である。キリスト教は、軽井沢にとって非常にモダンであった。それが一つの軽井沢のイメージとなり伝統化した事は参考となる。軽井沢の歴史の中には、新しいものを作るヒントがある。まちづくりは道楽であり、道楽精神がないとよいアイデアは出ない。長続きするまちづくりを実施するには、日本の基層文化から始めるとよい。軽井沢が目指すのは今の流行ではない。

５．第１期目終了に伴う感想

（１）各委員

【意見交換】（発言順）

Ｅ委員

基本会議を重ねるにつれ、住民にグランドデザインを理解してもらい意識を向けてもらうのは難しい事だと不安に駆られた時もあった。しかし、チームみらいえプロジェクトチーム（以下、みらいえ）で、子供達と軽井沢の故郷について考える取り組みが出来た時、今後の展開に期待が持てた。子供たちが一度は軽井沢を離れても、将来また戻りたいと思える町にするため、若者と話しが出来る機会を持ちたい。

また、ワークショップ報告会に参加し、皆さんが軽井沢に対して熱い思いを抱いている事と、将来に対する期待の大きさを感じた。

Ｆ委員

委員の皆さんの話しを聞く事ができ有意義な時間を過ごせた。みらいえを立ち上げ、イベントを実施する事が出来てよかった。北口ＰＴの提言書等、たくさんのガイドラインをもらったので、町職員として、今後形に出来るようにしていきたい。

Ｂ委員

50 年 100 年先を見据え、風土自治を活かしながら「軽井沢モダン」をどう実現していくか、大きなテーマであり茫洋としているので難しいと感じた。また、日本人は積極的に何かに参加、議論する事があまり得意ではない人種で、自分たちでまちづくりをするという考えは無かったが、住民自治が出てきて、プロジェクトが動き出した事を見ると、これは日本を変えていくような動きになる。自分たちでまちづくりするという試みで、軽井沢が先陣をきるのではないか。

小林慶一郎氏の「フューチャー・デザイン」という、現世代グループと仮想将来世代グループでどういうまちづくりをするか議論するという手法に注目している。

Ｄ委員

子供を育む仕事をしている立場で、22 世紀の風土を皆で考える事に魅力を感じ、基本会議に参加した。みらいえでは、将来子供たちが風土自治に主体的に携われ、人を育てるきっかけを作ることができればと思い参加した。来年度以降のみらいえでは、今までの活動では出来なかった取り組みや、子供たちが風土自治に興味を持つような活動をしたい。

基本会議は公開形式であるが、興味があっても足を運ぶのが難しい時間帯だと思う。たくさんの人が集まる場所に、こちらから出向いて周知出来ればよい。

Ａ委員

50 年 100 年先を見据えてまちづくりを考える軽井沢は非常に恵まれている。他の地域のまちづくり活動は、もっと目の前の問題と向き合っており、本質的に将来を見つめながらまちづくり活動に取り組める軽

井沢は素晴らしい。風土自治は難しいアプローチだが、実現する事が軽井沢の本質的な未来に対しての力になると改めて感じた。2 年間試行錯誤だったが、拙速に結果を求めず、悩むところは悩み実施できた事は、１期目としてはよかったと思う。私自身は、どういう形で関われば貢献できるのか最後までモヤモヤしながら終わってしまったのが、反省点である。

今後は、①50 年 100 年先を考えた時に、世の中の大きな変化に対してどう向き合うのかをグランドデザインの中に落とし込まなければ、現実解を見つける事は出来ない。特にテクノロジーは、風土フォーラムを中心に実施していくべきではないか。そうしなければ、閉じた視点で考えても現実味が生まれない。②この 2 年は、町の運営の延長線上で考えていたと思う。50 年 100 年先を考えるには、町の従来の前例に関わらずチャレンジする事が必要。未来に向けた柔軟な運用を実施する事と、そこにコンテンツをのせていく両方を進めるとよい。③別荘民と従来からの町民と観光客をどう交流させるかが重要であり、風土フォーラムがその中心になる事が大切である。民間でコラボレーションする仕掛け等が生まれているので、それを町または風土フォーラムでサポートし、民間のコミュニケーションを促進させるよう後押しする事を考えていくべきではないか。

G 委員

みらいえに参加し、行政と活動できた事はよい経験となり、印象に残る事業となった。過去の 50 年 100 年から学び、未来の 50 年 100 年に変えていく為に、未来を作っていく子供たちを交えた取り組みが出来ればよい。

また、エリアデザインを進める際に、各エリアがどういうデザインを目指していくのか共通認識を持つ方がよい。各エリアの代表が集まり方向性を共有し、町全体として進めていく事も大事である。より多くの人に風土フォーラムや風土自治が広がればと願っており、私も出来る限りの協力をしたい。

Ｃ委員

私の立場は事務局側でもあり、当初難しい部分もあった。若い職員委員が風土フォーラムの活動に力を入れられるよう、私も委員の一人として参加したが、その辺のフォローが出来なかったと反省している。基本会議、プロジェクトチームは、人とタイミングに恵まれ、北口ＰＴは風土自治のモデル的な設定として報告を上げてもらえるところまで到達した。今後、立ち位置を調整しながら、来期に繋げていきたい。

Ｈ委員

農業をしていると、あまり世間に出る機会がない中、活躍中の色々な人の意見を拝聴し、大変勉強になった。今後、皆さんと話しをしながら軽井沢の風土自治について考えていきたい。

Ｉ委員

最初に一番大事なことは風土自治であると聞き、その観点でこの２年間会議を見てきた。政治学者ロバート・パットナムのソーシャル・キャピタル論は、人々の協調行動を活発にする事により、社会の効率化を高める事が出来るという論文で、軽井沢はまさにそれである。軽井沢では、町民同士、別荘同士、町民と別荘等、幾重にも重なるソーシャル・キャピタルが出来始めている。これは自慢できることではないか。この会議をより一層深めていくために、ソーシャル・キャピタルを把握した上で提携し、意見交換も含め幅広く実施していけば、かなり大きなムーブメントとなり、パフォーマンスも上げることができる。風土フォーラム基本会議は有意義で、これからも期待できる組織だと思う。

（２）会長

・この 2 年間は手探り状態で、ボブスレーのように視界の見えない状態で突入していくようなスリルと戦慄を覚えた年であった。風土フォーラムの難しさは、風土自治という手法を手探りしながら、もう一方で「軽井沢モダン」という新しい具体的な理念の実現に向けて検討した事にある。つまり手段と目的を一緒に走らせたので、混乱した会議のスタートであった。しかし２年間で答えは出るという確信があり、拙速に物事を

運ぶ事が無いようにしたいという思いは守り、そこに皆さんの理解もあり、実施出来る事は手を付けてみた。充分でないにしろ、それなりに成果は上がった。軽井沢が変わったという実感を、皆さん幾らかずつでもお持ちではないか。北口ＰＴの結果は一つの具体的な証明だが、住民の意識が変わらないと言いながらも、少しずつ変化してきた事は確かである。だからこそ我々のエネルギーが補給されたと考えている。その方法は一つの流れとなり、第 2 期目以降の基本会議にも大きな刺激にもなる。この流れを途絶えることなく、続けていきたい。

・基本会議の会長職は今回をもち辞したい。2 年前にこの職をお預かりした時からの決意である。次期基本会議に期待している。

（３）町長

・非常に活発な議論をしているが、なかなか形に成らず歯がゆさを感じていたと思う。まちづくり活動は、自分が関わっているという実感を得る事が大事で、成果品よりそこに答えがある。住民参画を増やしていく事も大事だが、増やすほど纏める事が難しい状態にもなる。次期風土フォーラムでは、物事により住民参画の関わり方が違ってくるのでルールを決めて進めることが必要。多くの人に参画してもらえるよう、巻き込み型で実施していければよい。

・豊かな世界を享受できる事は、皆さんの努力の結晶だと感謝すると共に、それを更に次の世代にも渡していかなければいけない。軽井沢の厳しい規制は日本中探しても他になく凄い事である。この厳しい規制を守っている事を意識はしていないかもしれないが、外国人宣教師が切り開いた教えが根本にあると思う。

６．事務連絡

○第 1 期風土フォーラム基本会議委員の任期は、平成 30 年 3 月 31 日までとなる。

○北口ＰＴは、今年度で一区切りとする。来年度はエリアデザインに引き継いでいく。

○みらいえは、引き続き活動する。

７．閉　会